

総合リハビリテーション論

担当教員 未定

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 平成29年度は閉講。

【授業のねらい】

「全人的復権」を意味する、本来の”リハビリテーション”の理念、意義、方法について学習し、医学的リハビリテーションに偏らない”総合リハビリテーション”の視点から、社会福祉領域の専門家、実践家が備えるべき、障害特性に対応したリハビリテーションのしくみや支援技術を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	リハビリテーションの理念と障害の構造
3	身体障害のリハビリテーション（上肢損傷、対麻痺など）
4	身体障害のリハビリテーション（中枢性麻痺など）
5	身体障害のリハビリテーション（高次脳機能障害）
6	身体障害のリハビリテーション（視覚障害）
7	身体障害のリハビリテーション（聴覚障害）
8	中間まとめ、振り返り
9	知的障害のリハビリテーション
10	精神障害のリハビリテーション
11	社会リハビリテーションの役割
12	社会リハビリテーションのまとめ
13	職業リハビリテーションの役割
14	職業リハビリテーションのまとめ
15	国際動向、今後の課題

【履修上の注意事項】

「リハビリテーション」を本来の意味で捉え、「社会リハビリテーション」、「職業リハビリテーション」の重要性を考えるものである。予定されたテーマについて事前の情報収集を行い、授業で配布されたプリントの内容について確認してください。

【評価方法】

提出物80%、その他20%

【テキスト】

資料を配布する

【参考文献】

必要の都度、指示する

レクリエーション活動

担当教員 横田 真佐子

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

レクリエーションの基礎理論を理解し、支援者として心のこもった援助の方法を学ぶと同時に、レクリエーション種目の体験やグループワーク等を通して、福祉の現場で必要なコミュニケーションスキルを高めることができる。健康寿命延伸のためのスポーツレクリエーションについても学ぶことができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	レクリエーション概論 自己開示
2	アイスブレイキングとホスピタリティ
3	ニュースポーツ種目体験「フライングディスク」
4	対象者の心の元気づくり
5	グループワークによる人間関係訓練
6	レクリエーション財とアクティビティ
7	ウォークラリー体験
8	コミュニケーションと信頼関係づくり
9	暮らしを豊かにするクラフト
10	主体的にレクリエーションを楽しむ力を高める理論
11	福祉レクリエーションと歌の活用
12	体力アップエクササイズ・スポーツレクリエーション
13	魅力的なイベントの作り方
14	対象者に合わせたアレンジ法
15	レクリエーション支援の考え方

【履修上の注意事項】

授業前はテキスト等で内容の確認をし、授業後は関連する内容を調べるなどして学習内容を定着させること。体育館や外で行う授業の時は、動きやすい服装を準備すること。

【評価方法】

定期試験 70% レポート 20% 発表 10%

【テキスト】

楽しさをおとした心の元気づくり (公財) 日本レクリエーション協会 発行

【参考文献】

コミュニケーション・ワーク (財) 日本レクリエーション協会 編

福祉環境マネジメント論

担当教員 西島 衛治

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ノーマライゼーションを達成するためには、個別対応を含めたバリアフリーデザインと多くの対象者を想定した普遍的なユニバーサルデザインの地域づくりが必要である。集合住宅をはじめ都市施設整備を点から線、面へとアクセスを発展させることが重要である。そのための方法とアクセシブルなシステムを学生が学ぶことができる。

【授業の展開計画】

福祉環境工学では、住宅環境を中心に居住福祉とその技術について講義した。
福祉環境マネジメントでは、個人住宅をはじめ集合住宅、福祉のまちづくり（公共施設、交通など）環境整備に必要な人材養成、組織、関係機関の連携、関連専門家との連携、医学（専門家）モデルだけでなく生活・社会モデルを重視した「当事者主権」に基づいた環境整備のあり方を展開させる。

週	授 業 の 内 容
1	環境整備に必要な人材養成方法と関連する専門職・資格者について学ぶ
2	組織、関係機関の連携の在り方を学習する
3	関連専門家との連携（建築士、リハビリ関連の療法士、医師、保健師、介護福祉士、ケアマネ他）
4	医学（専門家）モデルの問題点を考える
5	生活・社会モデルに基づいた住環境整備の在り方について学ぶ
6	「当事者主権」とは何かを学習する
7	バリアフリーに関する法制度について学ぶ（法律、条令等）
8	建築基準法のバリアフリーの視点について学ぶ
9	バリアフリー新法ができるまでの経緯とこの法律の実効性について学ぶ
10	福祉のまちづくり条例（やさしいまちづくり条例）について熊本県の場合で考える
11	バリアフリーデザインの流れと今後の展開について議論する
12	ユニバーサルデザイン論とは何かについて議論する（バリアフリーとの違いとは）
13	関連演習（1）を行う：建築図面の見方や作図など（基礎的設計製図法を学ぶ）
14	関連演習（2）を行う：施設整備の現状視察を行う
15	これまで講義内容について多角的総括的に議論する

【履修上の注意事項】

【準備学習】事前に講義テキストを予習し記録する（120分）【課題等に関するフィードバック】講義内容を記録し、不明な部分を調べる。記録を図化や表に整理する。（120分）【その他のアドバイス】講義の中でノートの作成方法を指導する。そして、講義内容を理解できる内容に構造化する。結論の整理を箇条書きにする。理解できない場合、講師に質問する。

【評価方法】

- 1) 定期試験や中間理解度確認試験による評価（60%）
- 2) 予習・復習の自主的学習態度の確認（20%）
- 3) レポートによる評価（10%）
- 4) 講義における質疑応答状況（10%）

【テキスト】

ユニバーサル・バリアフリー検定3級公認テキスト、一般社団法人日本ユニバーサル・バリアフリー協会、2015（1000円）、教員作成参考資料・正誤表（配布）

【参考文献】

西島衛治編著『高齢者・障害者を配慮した建築設計チェックリストと実施例』理工図書
その他 配布資料など（プレゼンは、PPT使用）パワーポイント

災害支援演習

担当教員 安藤 学

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

災害支援の場合、常に支援協力活動にあたる要員の為に、快適な宿泊設備、生活物資が用意されているとは限らない。むしろ多くの場合が、災害被災地であったり、生活物資の不足する場所での支援協力活動である。支援協力活動において任務を遂行するために、まず自分自身の安全の確保と生命の維持が確保されなければならないし、またチームワークも重要である。この演習では、協力協同の精神を涵養し災害場面を想定して自活生存、生命維持のための基本的な方法と共に、支援活動に必要な基本技術を修得できる。

【授業の展開計画】

この演習では、「海上訓練」と「陸上訓練」に分けて集中的に実施する。「海上訓練」では短艇(カッター)を用いて協同協力の精神を養い、「陸上訓練」では実際にテントを設営し野営して自活生存方法を修得する。また「海上訓練」「陸上訓練」を通じてチームワークの重要性を学ぶ。実施の時期については、前もってオリエンテーションを開き説明指導する。ただしこの演習で、他の授業に支障(公欠で授業を欠席)がでないように、夏季休暇中の実施する。

「海上訓練」(9月上旬 4日間 長洲海洋センター/前面海域)

短艇(カッター)・帆走(ヨット)・結索(ロープワーク)・安全管理・気象観測・溺者救助・応急処置・信号通信・統率(指揮)法

「陸上訓練」(9月中旬 2泊3日 大学構内/蛇が谷公園)

オリエンタリング(地図見・コンパス見方)・ロープ技術(ロープ渡り・降下等)・野営方法(テント設営・炊飯等)・安全管理・救急処置(傷病者搬送方法含む)・統率(指揮)法

※ 「海上訓練」・「陸上訓練」とも、学内において事前指導を行った後に実施する。

【履修上の注意事項】

演習に際しては、安全確保のために指定の作業着・帽子・作業靴を着用する。(作業着等については、貸与するが、食事代と作業服のクリーニング代は各自負担)演習前に出された課題を完成させて授業に臨み、演習後は演習で学んだことを復習をすること。事前に配布された資料を学習しておき、演習終了後は各自で復習を定期的におこなうこと。

【評価方法】

技能(80%)、演習態度(20%)

【テキスト】

プリントを配布する

【参考文献】

なし

介護技術

担当教員 田代 京子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. □介護に必要な基本的知識・技術を正しく理解し、実施できるようになる
2. □介護を必要とする人々の身体的・心理的状況に配慮し、自立を支援できるようになる
3. 生活支援技術（介護技術）におけるICFの意義と枠組みを理解できるようになる
4. □安全で安楽な基本的介護技術を展開できるようになる

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	生活支援の理解
2	ICFの視点とアセスメント
3	介護における基本的なコミュニケーション技術（認知症の方への対応等）・記録と報告
4	自立に向けた居住環境の整備・福祉用具の活用
5	移動・移乗の介護技術Ⅰ
6	移動・移乗の介護技術Ⅱ
7	身じたくの介護技術
8	衣服の着脱の介護技術
9	食事の介護技術
10	入浴・清潔保持の介護技術
11	排泄の介護技術
12	安楽と安寧の技法・睡眠の介護技術
13	緊急事故の対応・終末期の介護
14	介護技術を現場で提供する時に必要な「介護過程の展開」の考え方
15	介護過程の展開の実際（事例検討）

【履修上の注意事項】

授業で使用する物品は忘れずに持参すること。
 授業前に学習する内容のテキストを読み予習しておく。
 授業計画は多少前後することがある。

【評価方法】

レポート70% 課題提出10% 授業中の参加意欲・発表20%

【テキスト】

介護福祉士養成テキストブック 「生活支援技術Ⅰ」（ミネルヴァ書房） 柴田範子編

【参考文献】

適宜、講義の中で紹介する。

就労支援サービス論

担当教員 橋本 眞奈美、平川 泰士

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会福祉領域の専門職、実践者に求められる「就労支援サービス」について理解する。相談支援、就労支援に関する基本的な枠組みとともに、実践的な活動の概略についても理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	「働く」意味、社会の仕組み
3	職業の分類、働き方の変化
4	「働く」ことにおける現状
5	「働く」ことに関する法律
6	障害者の雇用・就業（労）の現状
7	障害者の雇用支援、就業（労）支援の仕組み
8	中間のまとめ
9	職業リハビリテーションの体系
10	障害者以外に向けた就労支援サービス（生活困窮者等）
11	障害者以外に向けた就労支援サービス（母子世帯、高齢者等）
12	特別支援教育と職業的移行
13	就労移行支援、就労継続支援
14	雇用・就業（労）支援施策の動き
15	新たな動向とまとめ

【履修上の注意事項】

社会福祉士国家試験科目「就労支援サービス」に対応する。テキストを利用しての事前学習、配布された資料を利用した受講後の学習が求められる。

【評価方法】

提出物または試験80%、その他20%

【テキスト】

「就労支援サービス」 社会福祉士シリーズ18 弘文堂

【参考文献】

その都度、指示する

ジョブコーチング論

担当教員 吉光 清、小川 倫央、本田 壮一、平川 泰士 平川 泰士

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 平成29年度は閉講。

【授業のねらい】

障害者の就業（労）支援の実践のための基礎理論やジョブコーチ等、就労支援の実践者の支援内容、支援技法を理解する。実際の支援現場の担当者からの講義を踏まえて、就労支援のための職業相談、職業カウンセリング、就労支援サービス提供の実際を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（未定）
2	職業リハビリテーションと”ジョブコーチ”（未定）
3	”ジョブコーチ”とジョブコーチング（未定）
4	ジョブコーチングのための基本的な考え方（未定）
5	精神障害者の職業問題（小川）
6	精神障害者への雇用・就労支援（小川）
7	精神障害者へのジョブコーチング（小川）
8	精神障害者の定着支援（小川）
9	障害者雇用促進とジョブコーチの歴史（吉光）
10	知的障害者等の職業問題（本田）
11	知的障害者等への雇用・就労支援（本田）
12	知的障害者へのジョブコーチング（本田）
13	知的障害者の定着支援（本田）
14	多様な困難を抱える障害者への就労支援（吉光）
15	就労支援における新しい動き（吉光）

【履修上の注意事項】

「就労支援サービス論」の既習を原則とする。「就労支援サービス論」の該当範囲と事前配布資料に予め目を通し、授業後に当日の内容を復習してください。

【評価方法】

期末レポートが70%、その他が30%で評価する

【テキスト】

『ジョブコーチ入門』エンパワメント研究所

【参考文献】

必要の都度、指示する

社会・組織の心理

担当教員 永田 俊明

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会・組織の心理は、人と人とのつながりの中で、どのように感じ、考え、振舞っているのかということややりとりを通してどのような集団・社会を作り上げているのかということを考えることができるようにする。また、職場での人間関係やコミュニケーション及びメンタルヘルスに関する知見を活用し仕事の効率化や組織行動等について理解することが狙いとなる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会的認知Ⅰ：印象形成、バイアス、帰属
2	社会的認知Ⅱ：現実主義、対人認知、態度理論
3	社会的影響Ⅰ：態度変化、説得、勢力と服従
4	社会的影響Ⅱ：社会的比較、スティグマ、多数派と少数派
5	対人行動Ⅰ：自己呈示、マインドリーディング、社会的排除
6	対人行動Ⅱ：ソーシャルサポート、攻撃行動、コンフリクト解決
7	個人と集団Ⅰ：生産性、リーダーシップ、意思決定
8	個人と集団Ⅱ：囚人ジレンマ、社会的ジレンマ、個人と集団
9	ソーシャルネットワーク：組織のネットワーク、構造的すきま、クリティカルマス
10	マスコミュニケーション：フレーミング効果、沈黙のスパイラル、デジタルデバインド
11	職場の人間関係Ⅰ：集団特性、チームワーク、規範と社会化
12	職場の人間関係Ⅱ：マネジメント、意思決定、対人葛藤
13	仕事の効率と安全：ヒューマンエラー、作業負担、ユーザーインターフェイス
14	職場ストレスとメンタルヘルス：ストレス理論、過労死、職場サポート
15	統合的理解：社会・組織の心理について統合的に考查する

【履修上の注意事項】

事前準備として、関心のある社会現象等について文献や新聞などで確認しておくこと。さらに組織の在り方や心理的内容について事前学習しておくこと。

【評価方法】

定期試験：100点

【テキスト】

未定

【参考文献】

適宜紹介していく。

学校教育の心理学

担当教員 水間 宗幸

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

学校教育の現場における現象を、発達心理学・教育心理学的見地を中心に考える。また教育現場に必要な心理学的視点を養い、学校現場への理解を深めることができる。
現在の学校の役割とそこにおける機能を理解し、教育現場への教育心理的支援の在り方を考えることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション：21世紀の学校教育が目指すもの
2	学習理論と学習評価：新しい学習と評価の考え方
3	学習指導と学習評価：具体的指導と評価
4	カリキュラムと教授法：学習のスタイル
5	発達に関する基礎理論：アタッチメント、ピアジェ、生態学的発達モデル
6	子どもを理解する基礎知識：ことば・身体・数概念・社会的知識と発達
7	子どもたちへの支援①：社会的背景、特別な支援が必要な子どもたち
8	子どもたちへの支援②：学校教育相談、スクールカウンセリング、スクールカウンセラーとの連携
9	子どもたちへの支援③ストレスマネジメント、共同学習、キャリア教育
10	学級集団の心理学①：社会的態度、対人関係、特別なニーズを必要とする児童・生徒
11	学級集団の心理学②：集団の意義としくみ、学級崩壊と学級支援
12	教師と子どもの人間関係：ほめ方叱り方とコミュニケーション
13	学校組織と教師集団：学校という文化と学校支援
14	社会における学校：学校組織の適応と健康、地域との
15	まとめと総括

【履修上の注意事項】

予習復習が必要。特に次回に触れる内容について、少なくとも事前にテキストを一読すること。
教職免許取得希望者には受講を推奨します。

【評価方法】

総合的な学びの理解の確認のため、筆記試験にて評価を行う。

【テキスト】

「よくわかる学校教育心理学」 森 敏昭編 ミネルヴァ書房

【参考文献】

適宜紹介する

学校ソーシャルワーク論 I

担当教員 古閑 智子

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

今日の学校教育現場においては、不登校やいじめ、引きこもり、非行、児童虐待、ネグレクト等、様々な困難や課題が深刻化しています。学校のみでは対応が困難な状況にあり、学校・地域・家庭をつなぎ、子どもを中心とした支援を展開するスクールソーシャルワーカーの役割が求められています。本講義を通して、現代の子ども達を取り巻く状況を理解し、スクールソーシャルワーカーが果たすべき役割について理解できることを目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：学校ソーシャルワーク論とは？
2	学校ソーシャルワークの歴史（アメリカ）
3	学校ソーシャルワークの歴史（日本）
4	「教育」と「福祉」の接点
5	学校ソーシャルワークの専門的基盤と援助技術の概要
6	学校ソーシャルワークの目的と価値
7	学校ソーシャルワークの実践モデル
8	学校ソーシャルワークの実践過程と展開
9	学校スクールワーカーに求められる能力
10	日本におけるスクールソーシャルワーカーの活動
11	日本におけるスクールソーシャルワークの実践
12	支援ケース会議のあり方について
13	支援ケース会議の実際
14	協働支援の観点と技術
15	まとめ

【履修上の注意事項】

皆さんはこれまでに何らかの形で「学校」とかかわりを持ってきました。その体験的学校論を生かしながら授業に参加してください。毎回の講義について、事前の学習と講義後の振り返りを行ってください。

【評価方法】

1. 課題レポート 70% 2. 発表等の受講態度 30%

【テキスト】

「スクール〔学校〕ソーシャルワーク論」 社団法人日本社会福祉士養成校協会＝監修 中央法規

【参考文献】

- * 「スクールソーシャルワーカー養成テキスト」 日本学校ソーシャルワーク学会 中央法規
- * 「スクールソーシャルワーカーのしごと」 門田 光司・奥村 賢一 中央法規

学校ソーシャルワーク論Ⅱ

担当教員 古閑 智子

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「学校ソーシャルワーク論Ⅰ」を踏まえて、学校ソーシャルワークに特徴的な援助手法や展開過程等について、学校文化の特質を踏まえて理解します。さらに、個別事例を通して、日本における学校ソーシャルワーク実践のあり方について考察できることを目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	はじめに：学校を取りまく状況
2	「家庭」「学校」「地域」の固有性と接点
3	児童虐待問題の理解・基礎知識
4	児童虐待問題に対する学校ソーシャルワークの取り組み
5	発達障害の理解・基礎知識
6	特別支援教育における学校ソーシャルワークの取り組み
7	不登校・ひきこもりの理解・基礎知識
8	不登校・ひきこもりに対する学校ソーシャルワークの取り組み
9	非行問題の理解・基礎知識
10	非行問題に対する学校ソーシャルワークの取り組み
11	高校中退・進路問題の理解・基礎知識
12	フリースクール等に対する学校ソーシャルワークの取り組み
13	事例検討会議のあり方について
14	事例検討会議の実際
15	振り返りとまとめ

【履修上の注意事項】

皆さんはこれまでに何らかの形で「学校」とかかわりを持ってきました。その体験的学校論を生かしながら授業に参加してください。毎回の講義について、事前学習と講義後の振り返りを行ってください。

【評価方法】

1. 課題レポート70% 2. 発表等の受講態度30%

【テキスト】

「スクール〔学校〕ソーシャルワーク論」社団法人日本社会福祉士養成校協会＝監修 中央法規

【参考文献】

* 「スクールソーシャルワーカー養成テキスト」日本学校ソーシャルワーク学会 中央法規
 * 「スクールソーシャルワーカーのしごと」門田光司・奥村賢一 中央法規

介護の基本 I

担当教員 馬場 敏彰

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 介護の歴史を踏まえ、介護問題の背景にある課題を理解し、介護にかかわる動向と介護福祉士の役割と機能を把握し介護の原理原則を学ぶ。
2. 介護の社会化の形成過程の理解から介護福祉士の役割と活動について学び、専門職としての自覚を深める。
3. 専門職としての介護福祉士の自覚と実践を展開できる視点と方法を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	介護の歴史（介護福祉の形成を学ぶ意義）
2	日本における介護の成り立ちから介護福祉形成の背景
3	日本における介護の成り立ちから介護福祉形成の背景（明治・大正時代）
4	日本における介護の成り立ちから介護福祉形成の背景（戦前・戦後）
5	日本における介護の成り立ちから介護福祉形成の背景（老人福祉法制定）
6	介護福祉を取り巻く近年の動向（新介護システム ADLとQOL）
7	介護福祉を取り巻く近年の動向（自立支援に向けた尊厳と自己実現）
8	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ（介護福祉士資格成立前史）
9	介護福祉士の役割と機能（社会的役割としての介護ニーズ）
10	介護福祉士の役割と機能（法的資格への期待）
11	介護福祉士の役割と機能（史的における介護福祉士の役割の理解）
12	介護福祉士の役割と機能（求められる介護福祉士に向けた知識・技術修得の意義）
13	介護福祉形成の理解①〈演習〉（「介護」の見方・考え方の変化）
14	介護福祉形成の理解①〈演習〉（社会的に求められる専門的な介護）
15	介護福祉形成から今後の介護福祉士の役割と課題

【履修上の注意事項】

授業後の復習、授業前の予習を行うこと

【評価方法】

期末試験 80% 提出物 5% 授業態度 5% 取り組み状況 10%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会『介護の基本 I』『介護の基本 II』中央法規 最新版

【参考文献】

講義のなかで、適宜紹介する。

介護の基本Ⅱ

担当教員 馬場 敏彰

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 尊厳ある介護の理解と、援助理念を学び、人権尊重の観点を踏まえて職業倫理を身につける。
2. 人間の尊厳を支援する理念としてノーマライゼーション・利用者主体・プライバシーの保護・虐待防止等を学び、職業倫理を身につける。
3. 介護福祉士が専門職として身につけておくべき、理念や職業倫理の理解を深めつつ、介護場面での援助関係構築の意義について学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	尊厳を支える介護とは
2	利用者への生活支援と尊厳を支える介護
3	生活支援に必要なノーマライゼーションとQOLの考え方
4	尊厳を支える介護の実際
5	利用者主体の介護
6	利用者主体の介護の実際
7	事例を通して考える「利用者主体の介護」
8	介護の倫理（職業倫理、介護従事者の倫理）
9	介護福祉士にとって必要な「倫理」の理解
10	倫理とプライバシー
11	演習を通して考える「倫理とプライバシー」
12	利用者の人権尊重の意義（介護場面における虐待の背景）
13	介護に必要な人権尊重の考え方
14	利用者の人権を尊重した介護の実際
15	尊厳を支える介護の考え方<演習>

【履修上の注意事項】

授業後の復習、授業前の予習を行うこと

【評価方法】

期末試験 80% 提出物 5% 授業態度 5% 取り組み状況 10%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会『介護の基本Ⅰ』『介護の基本Ⅱ』中央法規 最新版

【参考文献】

講義のなかで、適宜紹介する。

介護の基本Ⅲ

担当教員 川俣 幹雄、小阪 勝己

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

介護職の立場からリハビリテーションの理念について説明できるようになる。また、障害とは何か、障害を持った方の家族支援の在り方や介護における多職種連携の在り方について説明できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	リハビリテーションとは？（川俣）
2	障害の理解（川俣）
3	ICFの概念（川俣）
4	介護を必要とする人の理解（生活暦と価値観）（小阪）
5	介護を必要とする人の理解（障がいや老いと向き合うことの難しさ）（小阪）
6	羞恥心を守る介護の重要性（小阪）
7	家族支援の実際（家族の介護負担、虐待発生のメカニズム）（小阪）
8	家族支援の実際（精神的支援の具体的方法）（小阪）
9	介護福祉士とリハビリテーション専門職との連携の重要性（小阪）
10	生活環境と介護（小阪）
11	良い介護を生む組織・環境づくり（小阪）
12	安全確保、リスクマネジメント（KYT活動等）（小阪）
13	多職種連携の重要性（施設内で行われる多職種連携の実際）（小阪）
14	多職種連携の重要性（在宅で行われる多職種連携の実際）（小阪）
15	介護福祉士に求められているものとは何か（小阪）

【履修上の注意事項】

各回の授業テーマと関連する教科書の該当箇所を事前に予習しておくこと。授業後に復習しておくこと。演習問題は2回以上解いてください。

【評価方法】

期末試験50%、日常的学習状況50%で評価する。

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会『介護の基本Ⅰ』『介護の基本Ⅱ』中央法規 2009年

【参考文献】

適宜講義中に紹介する。

介護の基本Ⅳ

担当教員 野島 謙一郎

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解すると共に、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習をし、介護従事者の倫理や介護における安全の確保とリスクマネジメントを理解できるようにする。

【授業の展開計画】

- 第1回 介護における安全の確保の重要性
- 第2回 リスクマネジメントとは、リスクの特定。
- 第3回 安全確保のためのリスクマネジメントの考え
- 第4回 事故防止、安全対策のためのリスクマネジメントのしくみ
- 第5回 生活の中のリスクと対策
- 第6回 生活の場での感染対策
- 第7回 高齢者介護施設と感染対策
- 第8回 感染症とリスクマネジメント
- 第9回 介護に携わる人の健康管理
- 第10回 介護職の健康と介護の質
- 第11回 こころの健康管理
- 第12回 からだの健康管理
- 第13回 労働環境の整備・改善
- 第14回 労働環境の改善
- 第15回 専門職業人としての介護福祉士

【履修上の注意事項】

講義前にテキストの当該箇所を一読してください。毎回ノートを取りましょう。参加者の知識・経験に合わせて適切に指導していきます。また、講義進捗や理解度を考慮し内容を変更することがあります。講義後の振り返りを各自行うようにしてください。

【評価方法】

試験結果70% 授業貢献度10% レポート20%

【テキスト】

新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ 第3版 (中央法規出版)

【参考文献】

授業中にて適宜紹介します。

介護の基本V

担当教員 瀬川 綾

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

介護場面において、安全を確保するということにはどんな意味があるのかを学び、具体的な知識と技術を身に付けることができるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	リスクマネジメントとは
2	ヒヤリハット・事故報告書の意義
3	利用者の視点から考える生活支援の方法
4	利用者・家族間との信頼関係づくり
5	事故防止・安全対策のマニュアル
6	チームケアの重要性
7	転倒・転落予防策
8	誤嚥予防の為の食事介助テクニック
9	感染対策の基本
10	感染症発生時の対応
11	高齢者を詐欺などの被害から守る為に
12	健康管理の意義
13	ストレス対策・腰痛対策
14	苦情処理の対応策
15	介護労働者の安全・健康管理

【履修上の注意事項】

実際に現場で起こりうるであろう事故や感染についてどんなものがあるかを調べてくること。また、そのような事故を起こさないためには、どんなことに注意が必要なのかを考え、自分の意見をはっきり発言できるようにして下さい。

【評価方法】

試験 60% 小テスト 10% 発表 20% 学習態度 10%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会編「新・介護福祉士養成講座4 介護の基本II」

【参考文献】

特になし。

介護の基本VI

担当教員 野島 謙一郎

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習をし、介護サービスでの介護福祉士の役割や姿を理解する。

【授業の展開計画】

- 第1回 介護サービスの意味と特性
- 第2回 ケアマネジメントの意味と仕組み
- 第3回 介護サービスの歴史の変遷と時代背景
- 第4回 介護サービスの種類と提供の場
- 第5回 介護保険制度によるサービス概要
- 第6回 障害者総合支援法によるサービス概要
- 第7回 介護サービス提供の場と特性
- 第8回 介護サービス提供の場と特性
- 第9回 介護サービス提供の場と特性
- 第10回 介護サービス提供の場と特性
- 第11回 多職種連携の意義と目的
- 第12回 協働職種の理解と連携のあり方
- 第13回 利用者を取り巻く多職種連携の実際
- 第14回 地域連携の意義と目的
- 第15回 利用者を取り巻く地域連携の実際

【履修上の注意事項】

介護保険制度及び障害者総合支援法の制度理解を事前学習とします。また、講義進捗や理解度を考慮し内容を変更することがあります。

【評価方法】

試験結果70% 授業貢献度10% レポート20%

【テキスト】

新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ 第3版 (中央法規出版)

【参考文献】

授業中にて適宜紹介します。

コミュニケーション技術 I

担当教員 佐藤 嘉倫

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ・介護実践で必要とされる人間関係形成のための「コミュニケーション技術」を理解できるようになる。
- ・利用者に関わる人たちと利用者の関係調整能力を習得する。

【授業の展開計画】

[授業全体の内容の概要]

- ・利用者や家族との信頼関係を醸成するコミュニケーションのあり方を学ぶ。
- ・ロールプレイ等を通して実際的なコミュニケーションの取り方を学ぶ。

週	授 業 の 内 容
1	コミュニケーションの意義、目的、基本
2	コミュニケーションの基本
3	介護技術とコミュニケーション
4	利用者・家族と信頼関係を醸成するコミュニケーション
5	アセスメントにつながるコミュニケーション
6	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション（傾聴の技法）
7	利用者の感情表現を察する技法
8	利用者の納得と同意を得る技法
9	質問の技法
10	相談援助の技法
11	指導・助言の技法
12	利用者の意欲を引き出す技法
13	利用者と家族の意向を調整する技法
14	複数の利用者がある場面でのコミュニケーション技法
15	振り返り

【履修上の注意事項】

- ・講義前にテキストの当該箇所を一読して下さい。
- ・講義後の振り返りを各自行うようにして下さい。

【評価方法】

- ・レポート
- ・授業への参加態度（積極的なロールプレイによるコミュニケーション技術の習得）

【テキスト】

新・介護福祉士養成講座「コミュニケーション技術」中央法規

【参考文献】

コミュニケーション技術Ⅱ

担当教員 佐藤 嘉倫

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

・コミュニケーション障害のある利用者を理解する視点を学び、適切なコミュニケーションの実践が可能とする

- ・文書（記録・報告書など）を通して、介護実践に必要とされる情報を関係者に伝達する技術を学ぶ。
- ・個人情報扱い方や情報の共有、管理の仕方を理解し、実践可能とする。

【授業の展開計画】

[授業全体の内容の概要]

- ・事例を通して、コミュニケーション障害のある利用者へのコミュニケーションのとり方の基本
- ・介護実践に必要な記録、会議のあり方

週	授 業 の 内 容
1	コミュニケーション障害とその原因
2	コミュニケーション障害のある利用者への対応（視点、対応の基本 他）
3	高次脳機能障害のある人とのコミュニケーション（事例）
4	失語症、構音障害のある人とのコミュニケーション（事例）
5	認知症（若年、高齢者）のある人とのコミュニケーション（事例）
6	視覚に障害のある人とのコミュニケーション（事例）
7	聴覚に障害のある人とのコミュニケーション（事例）
8	知的、精神に障害のある人とのコミュニケーション（事例）
9	介護におけるチームのコミュニケーション
10	介護における記録の意義、目的、種類
11	介護における記録の書き方と留意点、活用と保護・管理
12	報告・連絡・相談の意義と目的、方法と留意点
13	会議の意義と目的
14	会議の種類、方法、留意点
15	振り返り

【履修上の注意事項】

- ・講義前に教科書の該当ページを一読してください。
- ・講義時の演習に積極的に参加してください。

【評価方法】

- ・レポート
- ・授業への参加態度（積極的なロールプレイによるコミュニケーション技術の習得）

【テキスト】

新・介護福祉士養成講座「コミュニケーション技術」中央法規

【参考文献】

生活支援技術 I

担当教員 馬場 敏彰

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. どのような障害や生活の困難さがあっても生活そのものが個人としての自立・自律するために必要な援助や支援を学ぶ。
2. 生活の理解と支援の方法について、基本的な視点としてのICFの理解を深めると同時に介護サービス提供の対象や場を把握しながら、基本的な介護の知識・技術を養う。
3. 生活の仕組みの理解を深め、生活支援の考え方としてICFの視点を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	生活支援に必要な生活の理解
2	生活と生活習慣（生活の主体性）
3	生活形成のプロセスとアイデンティティ
4	生活の構成と要素
5	事例を通して考える「生活形成のプロセス」
6	生活の継続性
7	生活支援が必要な人の理解（生活関連動作と日常の生活）
8	生活支援の理解
9	生活支援の考え方①（意義・目的）〈演習〉
10	生活支援の考え方②（生活障害による生活のしづらさ）〈演習〉
11	生活支援とICFの視点
12	ICFの視点にもとづくアセスメント
13	ICFにおける「活動・参加」〈演習〉
14	利用者の生活と生活支援
15	生活支援の実際

【履修上の注意事項】

授業後の復習、授業前の予習を行うこと

【評価方法】

期末試験 80% 提出物 5% 授業態度 5% 取り組み状況 10%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会『生活支援技術 I』『生活支援技術 II』中央法規 最新版

【参考文献】

授業のなかで適宜紹介する。

生活支援技術Ⅱ

担当教員 西島 衛治、馬場 敏彰

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

[授業の目的・ねらい]・自立に向けた生活空間としての居住環境の整備にかかわって、安全で快適な環境の整備について学ぶ。

[授業全体の内容の概要]・居住環境の整備は、介護を必要とする者にとって安全で快適であることがすべての場面で整備されることを理解する。

【授業の展開計画】

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・安全で快適な居住環境の確保に必要な視点と方法を身につけ、施設・在宅における環境整備を他職種とも協働して取り組むことのできる態度を身につける。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1. 居住環境整備の意義と目的（馬場）
2. 生活空間と介護①（居場所とアイデンティティ、生活の場）（馬場）
3. 生活空間と介護②（すまい、住み慣れた地域での生活の保障）（馬場）
4. 居住環境のアセスメント①（ICFの視点にもとづく利用者の全体像のアセスメント）（馬場）
5. 居住環境のアセスメント②（ICFの視点にもとづく利用者の全体像のアセスメント）（馬場）
6. 安全で住み心地のよい生活の場づくりのための工夫①（快適な室内環境の確保、浴室、トイレ、台所等の空間構成等）（西島）
7. 安全で住み心地のよい生活の場づくりのための工夫②（プライバシーの確保と交流の促進、安全性への配慮、その他）（西島）
8. 安全で心地よい生活の場づくり①（住宅改修、住宅のバリアフリー化）（西島）
9. 安全で心地よい生活の場づくり②（ユニバーサルデザイン、その他）（西島）
10. 施設等での集住の場合の工夫と留意点①（ユニットケア、居室の個室化）（西島）
11. 施設等での集住の場合の工夫と留意点②（なじみの生活空間づくり、その他）（西島）
12. 居住環境整備と生活支援技術①（事例検討①…施設における住環境の整備）（馬場）
13. 居住環境整備と生活支援技術②（事例検討②…在宅における住環境の整備）（馬場）
14. 他の職種の役割と協働（馬場）
15. 学期末振り返り（馬場）

【履修上の注意事項】

必ず、予習と復習を行う。学則により、欠席回数が講義回数の三分の一を超えると、定期試験が受けられないので注意する。履修届けがない場合は、出席しても単位が出ない。

【評価方法】

[単位認定の方法及び基準]

- 1) 期末試験70%
- 2) 予習・復習の自主的学習態度の確認20%
- 3) レポートなどの提出物5%
- 4) 授業態度（授業に適する取り組み姿勢等）5%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会『生活支援技術Ⅰ』中央法規 2015年

【参考文献】

福祉住環境コーディネーター2級、東京商工会議所、高齢者・障害者を配慮した建築設計チェックリストと実施例、理工図書、ユニバーサル・バリアフリー検定3級、一般社団法人 日本ユニバーサル・バリアフリー協会

生活支援技術Ⅲ

担当教員 馬場 敏彰

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 4

【授業のねらい】

自立支援の観点から、身じたく・移動・食事・排泄にかかわる基本的な態度と方法について学び、演習を通じて具体的な方法の理解を深める
利用者体験を通して、利用者の気持ちを考えることができるようになる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	身じたくの意義と目的	16	状態状況別留意点〈上方・水平移動等演習〉
2	身じたくに関する利用者のアセスメント	17	状態状況別留意点〈仰臥位から側臥位等〉
3	生活習慣と装いの楽しみを支える介護	18	状態状況別留意点〈起居から端座位等演習〉
4	整容行動、衣生活を調整するアセスメント	19	状態状況別留意点〈端座位から立位等演習〉
5	身じたくの介助の留意点(洗面)	20	利用者の状態と状況に応じた移動介護の方法
6	身じたくの介助(整髪)	21	食事の意義・目的
7	身じたくの介助(髭剃り他)	22	食事介護の留意点
8	身じたくの介助(爪切り他)	23	利用者の状態・状況に応じた食事介助の留意
9	身じたくの介助(口腔ケア)見守り一部介助	24	利用者の状態・状況に応じた食事介助の留意
10	身じたくの介助(口腔ケア他)全介助	25	排泄介護の意義と目的(気持ちよい排泄)
11	身じたくの介助(衣服着脱介護他)一部介助	26	排泄介護の留意点(安全・的確な排泄介助)
12	身じたくの介助(衣服着脱介護他)全介助	27	排泄介助の状態状況別留意点〈見守り〉
13	移動の意義と目的	28	排泄介助の状態状況別留意点〈一部介助〉
14	移動に関する利用者のアセスメント	29	排泄介助の状態状況別留意点〈全介助〉
15	状態状況別留意点〈上方・水平移動等演習〉	30	入浴に関するアセスメントの視点と方法

【履修上の注意事項】

授業前にテキスト等で、事前学習を行うこと。演習後のレポートは、期限までに提出すること。レポートを通して復習を行うこと。演習では、決められた服装等を準備すること。

【評価方法】

期末試験60%、実技試験20%、授業への取り組み態度20%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会『生活支援技術II』中央法規 最新版

【参考文献】

適宜提示する。

生活支援技術Ⅳ

担当教員 馬場 敏彰

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 4

【授業のねらい】

利用者体験を通して、援助者としての資質向上に努めることができる。
入浴介助における生活支援の技術について、具体的な方法と支援を学び、安全の確保と快適な支援について理解を深めると同時に援助場面でのスキルを身につける。

【授業の展開計画】

詳細な授業計画および準備物等については、第1回目の講義で説明する。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	一連の生活支援技術(見守り 一部介助)	16	清潔保持の介助の技法(洗髪介護の方法)
2	一連の生活支援技術(全介助)	17	利用者の状態・状況に応じた介助の留意点
3	自立に向けた入浴のアセスメント	18	利用者の状態・状況に応じた介助の方法
4	ICFの視点にもとづいたアセスメント	19	利用者の状態・状況に応じた介助の演習
5	爽快感・安楽を支える入浴介護の意義	20	利用者の状態・状況に応じた介助のまとめ
6	爽快感・安楽を支える介護の工夫	21	一連の生活支援技術(見守り 一部介助)
7	清潔保持の介助の技法(入浴介護の留意点)	22	一連の生活支援技術(全介助)
8	清潔保持の介助の技法(入浴介護の方法)	23	健康状態確認技法
9	清潔保持の介助(シャワー浴介護の留意点)	24	状態状況別生活支援技術(視覚障害)
10	清潔保持の介助(シャワー浴介護の方法)	25	状態状況別生活支援技術(聴覚・言語障害)
11	清潔保持の介助の技法(清拭介護の留意点)	26	状態状況別生活支援技術(グループ演習)
12	清潔保持の介助の技法(清拭介護の方法)	27	状態状況別支援技術 運動機能障害の理解
13	清潔保持の介助(部分浴介護の留意点)	28	状態状況別生活支援技術(発達障害)
14	清潔保持の介助の技法(部分浴介護の方法)	29	状態状況別支援技術 運動器疾患による障害
15	清潔保持の介助の技法(洗髪介護の留意点)	30	状態状況別支援技術 脳血管障害・神経疾患

【履修上の注意事項】

授業前にテキスト等で、事前学習を行うこと。演習後のレポートは、期限までに提出すること。レポートを通して復習を行い、自分の技術習得の状況を振り返りを行うこと。演習では、決められた服装等を準備すること。

【評価方法】

期末評価(筆記試験・実技試験) 80%、提出物 10%、出席状況や授業への取り組み態度 10%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集『生活支援技術Ⅱ』中央法規 最新版

【参考文献】

適宜提示する。

生活支援技術V

担当教員 有馬 留以子

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 4

【授業のねらい】

家庭生活に必要な基礎知識を学び、健康で自立した生活に必要なものは何かについて考えていく。
1人暮らしの高齢者が生活を送るためにどのような生活支援をすればよいのか考えられるようにする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	家庭生活とは	16	被服と皮膚の衛生保持・管理
2	生活設計の考え方	17	被服実習Ⅰ
3	食生活の基本知識	18	被服実習Ⅱ
4	栄養の理解（炭水化物・脂質）	19	被服実習Ⅲ
5	栄養の理解（たんぱく質・無機質・ビタミン）	20	被服実習Ⅳ
6	献立の立て方・食品の購入と選択	21	家事支援の意義と目的
7	高齢者の食事	22	家事支援の介護技術（調理）
8	調理の基本	23	家事支援の介護技術（洗濯）
9	調理実習Ⅰ（調理の基礎）	24	家事支援の介護技術（掃除・ごみ捨て）
10	調理実習Ⅱ	25	家事支援の介護技術（裁縫）
11	調理実習Ⅲ	26	家事支援の介護技術（衣類・寝具の衛生管理）
12	調理実習Ⅳ	27	家事支援の介護技術（買い物）
13	被服の機能	28	家事支援の介護技術（家庭経営・家計の管理）
14	被服の素材・性能と表示	29	他職種の役割と協働
15	被服の管理（手入れと保管）	30	まとめ

【履修上の注意事項】

テキストを事前に学習すること。生活に関連する授業なので、新聞なども読むこと。

【評価方法】

期末テスト70%、作品30%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会『生活支援技術Ⅰ』中央法規

【参考文献】

生活支援技術Ⅵ

担当教員 馬場 敏彰

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 4

【授業のねらい】

利用者にとっての睡眠の確保と安眠への支援が、快適な生活の基本であることを学ぶ。さらに人間の尊厳にかかわる「終末期」における医療との連携の必要性を理解し、介護福祉士としての役割を身につける。

【授業の展開計画】

詳細な授業計画および準備物等については、第1回目の講義で説明する。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	心臓・呼吸機能低下傾向の人の生活理解	16	終末期の介護（尊厳の保持）
2	心臓・呼吸機能低下傾向の人への介護方法	17	終末期におけるアセスメントの視点
3	腎臓機能、膀胱直腸低下傾向の人の生活理解	18	ICfの視点にもとづく終末期のアセスメント
4	腎臓機能、膀胱・直腸低下傾向の人への介護	19	終末期における医療との連携の意義と実際
5	認知・知覚機能低下傾向の人への介護留意点	20	終末期における介護（援助の基本姿勢）
6	認知・知覚機能低下傾向の人への介護方法	21	終末期における介護（他職種との連携等）
7	精神障害の人の生活理解と介護方法	22	終末期における介護（具体的援助）
8	精神障害の人への介護方法	23	臨終期の介護（症状の変化への援助）
9	発達障害者支援技法	24	死別期の介護の留意点と方法 死後のケア含
10	重複障害（重症心身障害）への介護方法	25	グリーフケア 意義・目的 援助者の役割等
11	自立に向けた睡眠の介護（意義・目的）	26	他の職種の役割と協働
12	睡眠に関するICFの視点によるアセスメント	27	多職種間の連携と介護福祉士の役割
13	安眠のための介護の留意点	28	一連の生活支援技術（施設生活）
14	安眠のための介護の方法と工夫	29	一連の生活支援技術（在宅生活）
15	終末期の介護（意義・目的）	30	尊厳ある支援を提供するための方法の理解

【履修上の注意事項】

授業後の復習、授業前の予習を行うこと

【評価方法】

期末試験 80% 授業態度及び取り組み状況 20%

【テキスト】

『生活支援技術Ⅱ』『生活支援技術Ⅲ』中央法規

【参考文献】

適宜提示する。

認知症の理解 I

担当教員 吉岡 久美

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

認知症に関する基礎的知識を習得すると共に、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、生活支援の視点を習得する学習とする。

【授業の展開計画】

認知症を取り巻く状況や、医学的側面から見た認知症の基礎について学習する。認知症に伴うこころとからだの変化を理解し、日常生活における変化と支援についての知識を習得する。

週	授 業 の 内 容
1	認知症ケアの歴史と理念、認知症になった人の数の推移などの現状を知る
2	認知症に関する現在の支援対策を、報道等をもとに理解する
3	中核症状による生活困難を知る
4	BPSDによる生活困難を知る
5	認知症と間違えられやすい症状を理解する
6	認知症の原因となる疾患の症状とその特徴を理解する
7	認知症に対する検査・治療・予防を知る
8	若年性認知症の理解（DVDなどの教材をとおして）
9	認知症の人の生活の変化を理解する
10	認知症の人の心理的影響、行動障害の理解と対応
11	認知症の人の行動障害の理解と対応（事例をとおした演習）
12	周辺症状の背景にあるこころの理解（不安、孤独など）
13	認知症の事例検討（演習）
14	認知症に関する検査、診断、治療をもとに、生活を支える視点について総合的に理解する
15	認知機能が低下した人の人権をまもる成年後見制度をはじめとした制度の理解

【履修上の注意事項】

事前学習として、講義で示している単元のテキストを読んでもらうこと。
事後学習では、講義中にとったノートをまとめなおすこと。

【評価方法】

試験やレポートの評価基準など 試験：60% 演習課題：30% 受講態度・演習へのとりくみ：10%

【テキスト】

新・介護福祉士養成講座 第12巻 認知症の理解（中央法規）

【参考文献】

認知症の理解（ミネルヴァ書房）

認知症の理解Ⅱ

担当教員 吉岡 久美

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 平成29年度は2・3年合同開講。

【授業のねらい】

1. 認知症高齢者の症状や生活に伴う困難を理解する。
2. 認知症ケアの基本的考え方やケアの実際を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	認知症の原因疾患と症状を再確認し、その知識を支援に活用することができる
2	認知症の人を生活者の視点から捉え、生活支援の在り方を理解する
3	ワイズマンの3つの環境構成要素を踏まえ、環境による働きかけを工夫することができる
4	生活の独自性・全体性・地域制・継続性を考慮した支援を理解する
5	認知症の人へのかかわり方の基本を理解する
6	認知症の進行に応じた支援を理解する（初期・中期）
7	認知症の進行に応じた支援を理解する（後期・ターミナル期）
8	認知症の人に対する地域資源や、行政のサポート体制を知り、検討する
9	チームアプローチの事例を通して、認知症の支援に関わる者の役割を理解する
10	介護家族の4つの苦しみを理解し、家族支援に活かすことができる
11	家族へのレスパイトケアの方法を理解し、事例に応じて組み立てることができる
12	エンパワーメントを踏まえた家族支援ができる
13	介護保険制度における認知症対策を理解する
14	グループホームと小規模多機能事業所の役割を理解する
15	認知症の人の望ましい生活を考えることができる

【履修上の注意事項】

事前にテキストを読んで予習する。講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。

【評価方法】

定期試験70%、演習課題30%

【テキスト】

『認知症の理解』中央法規

【参考文献】

進行の中で紹介、資料配布を予定している。

障害の理解

担当教員 水間 宗幸

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

障害の捉え方の変化、障害者支援の全体像を踏まえながら、主な障害種類について身体機能や心理機能の問題、障害特性を学習し、医学的側面、心理的側面から各障害の基礎的事項を理解できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（水間）
2	”障害”概念の理解（水間）
3	視覚障害（種類、原因、障害特性、支援の課題）（水間）
4	聴覚障害（種類、原因、障害特性、支援の課題）（水間）
5	肢体不自由（種類、原因、障害特性、支援の課題）（水間）
6	中途障害と心理的適応（水間）
7	難病（種類、原因、特性、支援の課題）（吉光）
8	内部障害（種類、原因、障害特性、支援の課題）（吉光）
9	高次脳機能障害（種類、障害特性、支援の課題）（吉光）
10	精神障害（種類、障害特性、支援の種類）（水間）
11	知的障害（種類、障害特性、支援の課題）（水間）
12	発達障害（種類、障害特性、支援の課題）（水間）
13	障害児・者の支援のためのアセスメント（水間）
14	障害児・者の心理的支援（水間）
15	まとめ、”障害”をめぐる新しい動き（水間）

【履修上の注意事項】

「介護福祉士」国家試験を受験する場合の指定科目「障害の理解」は、本学においては「障害者福祉論Ⅰ」とこの「障害の理解」を併せたものとなりますから、両方を履修しなければなりません。各回の講義テーマについて、事前の学習、事後の振り返り学習が求められます。

【評価方法】

レポートまたは試験80%、授業中の質問への応答20%とする

【テキスト】

必要の都度、資料を配布する。

【参考文献】

随時、指示する

介護過程 I

担当教員 吉岡 久美、馬場 敏彰

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 介護福祉士養成の科目の学びを統合して、介護過程の意義・目的・目標を情報収集からアセスメントをし、介護計画を立案する力量を身につける。
2. 介護過程の概要と構成要素を把握して介護過程の理解を深め、情報収集してアセスメントできるように学び、生活支援の目標設定から介護計画策定までの一連のプロセスの理解を深める。
3. 介護過程の一連の流れを理解し生活支援の介護計画を立てる力を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	介護過程とは何かを知り、その概要と構成要素を理解する
2	介護場面における生活上の課題から解決プロセスにおける考え方を知る
3	生活上の課題から自立生活に向けた展開プロセスにつながることを理解する
4	生活上の課題とその解決過程の基本視点を獲得する（事例をもとに検討する）
5	介護過程の意義、目的と生活支援の関係性を知る
6	生活支援における介護過程の必要性を理解する
7	情報収集の意義と方法について、具体的場面から必要な知識と技術を考える
8	アセスメントの目的を理解する
9	アセスメントから介護計画につながる全体像を理解する
10	生活支援の課題解決に向けた情報のとらえ方を知る
11	情報収集の方法と分類を理解する
12	情報収集の実際と分類を実践する（事例をもとに検討する）
13	情報の解釈・関連づけ・統合化の意味と方法を理解する
14	介護計画に向けたアセスメントの実践をする〈演習〉
15	アセスメントから生活支援の目標設定方法を理解する

【履修上の注意事項】

事前学習として、予定単元に該当するテキスト部分を読んでくること。
事後学習として、講義中のノートをまとめなおし、課題に取り組むこと。

【評価方法】

筆記試験：80% 課題提出：10% 授業時の積極性：10%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会『介護過程』中央法規 最新版

【参考文献】

講義中適宜提示する。

介護過程Ⅱ

担当教員 吉岡 久美

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

介護過程における自立支援とICFの視点を基本にした課題解決の過程を理解し、自立に向けたアセスメントが介護計画作成への重要な鍵となることを理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	介護過程における[自立]とは何か理解する
2	ICFの視点を含め、生活者としての対象者のとらえ方を理解する
3	「リハビリテーション」を目指す情報の関連付け・統合化・分析を理解する
4	介護過程におけるノーマライゼーションを知る
5	「活動・参加」「個人因子」「環境因子」を考慮した生活課題の抽出方法を知る
6	介護における支援の目標設定方法と具体的な援助計画の作成方法を理解する
7	日常生活の自立支援に向けた個別介護支援計画を作成する
8	個別介護支援計画の実施方法を理解する
9	個別介護支援計画の実施上の注意点を知る
10	個別介護支援計画の具体的な実施における記録について理解する
11	実践した介護の記録を基にした評価方法を理解する
12	評価の実践を知る（演習）
13	介護過程における評価、再アセスメントの過程の重要性とその効果を理解する
14	介護過程の一連としての実施・評価による対象者への影響を理解する
15	事例を通して、自立支援を目指した日常生活における援助のための介護過程を理解する

【履修上の注意事項】

必ず、予定されている授業内容を確認してテキストを読み、指示された事前レポートを作成すること。講義終了後は振り返りを行い、指示された課題に取り組むこと。

【評価方法】

筆記試験：80% 課題の提出：10% 講義における積極性：10%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集 「介護過程」 中央法規 最新版

【参考文献】

講義中、適宜指示する。

介護過程Ⅲ

担当教員 吉岡 久美、馬場 敏彰

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

個別介護計画の作成に必要な情報をアセスメントすることの意義を理解し、対象者の個々の状態・状況から個別介護計画作成の一連のプロセスを学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	生活者の生活活動動作を知る	16	計画立案の留意点を分析し理解する
2	生活活動動作の基本的な捉え方を知る	17	事例を用いて計画立案の実践を理解する
3	介護過程における介護計画を理解する	18	事例を用いて計画立案を実践する
4	個別介護計画を作成する方法を理解する	19	困難事例による計画立案の方法を知る
5	利用者にとっての介護計画の意義を知る	20	困難事例による計画立案を実践する
6	利用者にとっての介護計画作成を理解する	21	個別介護計画の実施における留意点を知る
7	状態・状況に応じた介護過程展開を知る	22	個別介護計画の評価方法を理解する
8	状態・状況に応じた介護過程の実際を知る	23	事例研究：体験した事例の情報を整理する
9	情報収集の留意点について分析する	24	事例研究：かかわりを振り返り検討する
10	アセスメントの留意点を理解する	25	事例研究：アセスメントの傾向を知る
11	事例を用いて情報収集の具体的方法を知る	26	事例研究：計画・実践の可能性を探求する
12	事例を用いて情報収集の実際を理解する	27	事例研究：まとめた事例を共有する（発表）
13	事例を用いてアセスメントを検討する	28	事例研究：事例を共有し検討する
14	事例からのアセスメントの課題を探求する	29	個別介護計画の見直しと再立案を実践する
15	計画立案における留意点を知る	30	評価の視点を探求する

【履修上の注意事項】

必ず予定されている授業内容を確認してテキストを読み、指示された事前学習レポートを作成すること。講義終了後は振り返りを行い、指示された課題に取り組むこと。

【評価方法】

筆記試験：80% 課題の提出：10% 講義における積極性：10%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集 「介護過程」 中央法規 最新版

【参考文献】

講義中、適宜指示する。

介護過程Ⅳ

担当教員 吉岡 久美、馬場 敏彰

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

介護の実践に必要な他職種とのチームアプローチを学び、個別介護支援計画作成のための介護専門職との連携、サービス担当者会議における他職種との調整、インテークからモニタリング、再アセスメントといった一連のプロセスを理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	チームアプローチとは何かを理解する
2	チームに存在するメンバーの役割を理解する
3	生活課題解決のためのチームアプローチの意義を理解する
4	ケースカンファレンスの意義・目的を知る
5	サービス担当者会議の意義・目的を知り、準備から実施までを理解する
6	チームアプローチによる支援を理解する
7	介護過程におけるチームアプローチを理解する
8	介護過程とケアプランの関係性を理解する
9	ケアプランに基づいた個別介護計画を作成し、重要性を理解する
10	作成した計画におけるチームアプローチを探る
11	介護過程と他の職種との関係を理解する
12	介護過程における他の職種との連携を理解する
13	日常生活介護における社会資源を理解する
14	社会資源の活用方法を知る
15	事例をもとに、ケアプランと介護過程を理解する

【履修上の注意事項】

事前学習として、講義で示している単元のテキストを読み、まとめておくこと。
事後学習では、講義中にとったノートをもとめなおし、指示された課題に取り組むこと。

【評価方法】

筆記試験：80% 課題提出：10% 講義における積極性：10%

【テキスト】

新) 介護福祉士養成講座編集『介護過程』中央法規

【参考文献】

授業の中で適宜提示する。

介護総合演習Ⅰ

担当教員 吉岡 久美、馬場 敏彰

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 利用者とのコミュニケーションにより人間的な関わりを深めることで、利用者の生活について理解できることを学ぶ。
2. 体験学習の意義、重要性について理解できる。
3. 介護実習の意義、目的や利用者へのかかわり方について理解できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	介護実習の意義や目的、位置付けについて理解する	〈吉岡〉
2	実習施設の種類に関して知り、実習段階を理解する	〈吉岡〉
3	福祉施設（通所・居宅）の機能と職員の役割について理解する	〈吉岡〉
4	福祉施設（通所・居宅）利用者の特徴とコミュニケーション方法を理解する	〈吉岡・馬場〉
5	実習生としての心構え（マナーを含む）を知る	〈吉岡〉
6	介護実習における記録の必要性とその意義について理解する	〈吉岡〉
7	実習に必要な書類について理解し、作成する	〈吉岡〉
8	実習準備としての事前訪問について理解する	〈吉岡〉
9	実習日誌の重要性を理解し、具体的方法を知る	〈吉岡〉
10	介護実習Ⅰの目的を明確化し、目標設定をする	〈吉岡〉
11	介護実習Ⅰの実践をイメージした行動計画を立案する	〈吉岡〉
12	介護実習Ⅰにむけた実習施設別の学習課題とその指導（個別指導）	〈吉岡〉
13	介護実習Ⅰ直前指導：目標設定の見直し、および施設理解を深める	〈吉岡〉
14	介護実習Ⅰ事後指導：自己の行動を客観的に振り返る	〈吉岡・馬場〉
15	介護実習Ⅰ事後指導：実習における目標の達成度の確認と学びの共有	〈吉岡・馬場〉

【履修上の注意事項】

大学における規定の出席回数を満たしていなければ評価対象としない。
 事前学習として、講義で示している単元のテキストを読むこと。
 事後学習では、講義中にとったノートをまとめなおし、実習に向けた事前学習ノートを整理するとともに、課題に取り組むこと。

【評価方法】

演習への積極性、参加態度 60% 提出物（課題・レポート等）40%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会『介護総合演習・介護実習』中央法規

【参考文献】

適宜紹介する。

介護総合演習Ⅱ

担当教員 吉岡 久美、馬場 敏彰

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ・学内で学んだ知識に基づいて利用者に関わりを深め、介護ニーズについて考える。
- ・高齢者施設での機能や利用者の特徴について理解をする。
- ・高齢者の日常生活援助に関する介護の目的や機能並びに施設職員の一般的な役割について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	介護実習Ⅰを振り返り、高齢者施設での機能と福祉施設職員の役割を理解する
2	介護実習Ⅱの課題である、利用者の特徴とコミュニケーション方法を理解する
3	介護実習Ⅱの要項をもとに、課題の理解と心構えについて深める
4	介護施設における各職種の業務内容と連携について理解する
5	高齢者施設を利用する人の生活について考える
6	カンファレンスの種類を知り、実習カンファレンスの意義・方法を検討する
7	介護実習日誌の重要性の理解と具体的方法を知り、実践することでその内容を検討する
8	介護実習における介護過程の展開（個別介護のための利用者情報獲得）方法を検討する
9	介護実習Ⅱの実習目標および行動計画を作成する
10	介護実習Ⅱの実習目標および行動計画を見直して具体化する
11	実習における自己評価項目を作成する
12	実習の全体像をイメージし、施設理解、利用者理解、生活支援技術実施を具体化する
13	介護実習Ⅱの直前指導として課題を確認し、実習における行動・学習を検討する
14	介護実習Ⅱを振り返り、課題を整理して報告書を作成する
15	実習における学びと実践について発表し、共有しながら高齢者施設における介護を探究する

【履修上の注意事項】

規定の出席回数を満たしていなければ評価対象としない。
 事前学習として、指示された項目を調べてまとめておくこと。
 事後学習として、講義終了後にノートを整理し、指示された課題に取り組むこと。

【評価方法】

取り組み状況20% 授業態度40% 提出物（課題・レポート等）40%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会『介護総合演習・介護実習』中央法規

【参考文献】

適宜紹介する。

介護総合演習Ⅲ

担当教員 吉岡 久美、馬場 敏彰

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 学習している知識に基づいて、日常生活に援助が必要な高齢者や障がい者の介護ニーズについて考える。
2. 高齢者や障がい者の日常生活介護の目的や機能並びに施設職員の役割について理解する。
3. 日常生活上の支障ある部分に応じた生活支援技術の適正な技法を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	障がい者支援施設の種類と特徴を理解する
2	障がい者支援施設の機能と職員の役割について理解する
3	障がいの特徴とコミュニケーション方法について考える（グループワーク）
4	障がい者支援施設における介護の役割を理解する
5	障がい者支援施設と地域、家族の連携について理解する
6	実習生としての自己覚知をする
7	チームワークを理解し、実習におけるチームの一員としての関わりを検討する
8	実習記録の重要性を再認識し、具体的記入方法を理解する
9	介護実習Ⅲの目的から自己課題を明確にし、課題解決に向けた対策を考える
10	介護実習Ⅲの実習目標を設定し、実践をイメージした行動計画を立案する
11	実習目標および行動計画を見直して具体化する
12	介護実習における自己評価項目を作成する
13	介護実習Ⅲの直前指導として課題を確認し、実習における行動と学習を検討する
14	介護実習Ⅲを振り返り、課題を整理して報告書を作成する
15	介護実習Ⅲにおける目標達成度の確認と学びの共有を発表を通して実践する

【履修上の注意事項】

規定の出席回数を満たしていなければ評価対象としない
シラバスを確認して、単元の事前学習と準備を行い、演習後には課題にとりくむこと

【評価方法】

演習への積極性、参加態度：60% 提出物（課題・レポート等）：40%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会「介護総合演習・介護実習」 中央法規

【参考文献】

適宜紹介する

介護総合演習Ⅳ

担当教員 吉岡 久美、馬場 敏彰

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 介護過程の展開を考え、個別介護について理解を深め、実践につなげることができる。
2. 施設職員の組織を理解し、チームの一員として介護業務を行う能力を養う。
3. 介護過程の展開を考え、個別介護について検討できる能力を獲得する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	介護実習Ⅲを振り返り、施設や技術、利用者の理解を深める
2	介護実習Ⅲにおける学習について、その成果と不足点を分析する
3	介護実習Ⅰ～Ⅲから、自己の課題を明確にする
4	介護実習Ⅳの目的を理解し、日常生活が困難な方への技術の提供を検討する
5	入所施設と地域、家族の連携について、現状と課題を検討する（討議）
6	これまでの体験から、連続した生活支援について考え、生活課題を見出す方法を探る
7	介護実習Ⅳの目的から自己課題を明確にする
8	介護実習Ⅳの実習目標を設定し、行動計画を立案する
9	実習目標及び行動計画を具体化し、日々の行動計画を作成する
10	実習課題である「介護福祉士の役割」について検討する（討議）
11	チームアプローチについて考え、具体的場面から介護の役割を見出す
12	介護実習における自己評価項目を作成する
13	介護実習Ⅳの直前指導として課題を確認し、実習における行動と学習を検討する
14	介護実習Ⅳを振り返り、課題を整理して報告書を作成する
15	介護実習Ⅳにおける目標達成度の確認と学びの共有を、発表を通して実践する

【履修上の注意事項】

規定の出席回数を満たしていなければ評価対象としない
シラバスを確認して、単元の事前学習と準備を行い、演習後には課題に取り組むこと

【評価方法】

演習への積極性、参加態度：60% 提出物（課題・レポート等）：40%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会「介護総合演習・介護実習」 中央法規

【参考文献】

適宜紹介する

介護総合演習V

担当教員 吉岡 久美

配当年次 3年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

居宅介護、グループホーム等に関する制度を理解し、利用者の生活形態、家族関係を考慮した生活援助を学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	グループホームに関する制度と利用者の生活を理解する
2	在宅生活をする介護が必要な対象者の生活を理解する
3	在宅生活を支援する介護の専門性と実践を理解する
4	居宅支援に位置づけられる福祉サービスを理解する
5	居宅支援の実践者とその役割を理解する
6	居宅支援における介護福祉士の役割を探求する（グループワーク）
7	居宅支援のチームアプローチにおける連携方法を考える
8	居宅支援の実践に必要な接遇等を考える
9	これまでの実習を振り返り、居宅支援の実施にむけた自己課題を明確化する
10	介護実習Vの目的を明確化し、目標設定をする
11	介護実習Vの行動計画を作成する
12	実習施設の理解を深め、考えられる利用者像をもとに生活支援を検討する
13	介護実習Vの直前指導として、課題を確認して実習における行動と学習を検討する
14	介護実習Vを振り返り、自己評価をもとに目標達成状況の確認と報告書作成をする
15	介護の対象者の理解、施設理解、生活支援技術の提供等について総合的にまとめ発表する

【履修上の注意事項】

事前学習として、単元に関するテキストを読んでもらうこと。
事後学習では、演習における課題に取り組むこと。

【評価方法】

演習への積極性、参加態度：60% 提出物（課題、レポート等）：40%

【テキスト】

新) 介護福祉士養成講座編集『介護総合演習・介護実習』中央法規 最新版

【参考文献】

介護実習要項等

介護実習 I

担当教員 吉岡 久美、馬場 敏彰

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

通所施設や居宅施設を利用する日常生活援助が必要な人を知り、その介護の目的や機能並びに施設職員の役割について説明できる。

【授業の展開計画】

利用者と関わることでその人を知り、講義、演習、学内実習で学んだ知識を基に介護ニーズを考える。

1. コミュニケーション能力を身につけ、対象者理解を意識して行動する。
2. 福祉施設（ディサービス等）の機能と職員の役割を知る。
3. 施設内の環境を知り、実際の介護技術の提供場面を体験する。

□

【実習内容】

1. 利用者とかかわり、コミュニケーション技術を習得する。
2. 利用者のニーズを考え、介護の実践の場を体験する。
3. 記録を通して自己の学びを明確化する。

【履修上の注意事項】

実習前には、介護総合演習における事前学習を振り返ること。

実習終了後は、実習を振り返った報告書を見直し、自己課題を明確にしておくこと。

【評価方法】

施設指導者による評価 60% 実習担当教員による評価30% 実習への総合的な積極性 10%

【テキスト】

新) 介護福祉士養成講座編集『介護総合演習・介護実習』中央法規

【参考文献】

本学で作成した「介護実習要項」と「実習日誌」等

介護実習Ⅱ

担当教員 吉岡 久美、馬場 敏彰

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ・学内で学んだ講義、演習、学内実習を基にして、施設実習に応用する。
- ・生活障害を有する高齢者の施設を実習施設とし、要介護に応じて求められる介護技術の適正な使い方を身につけ、利用者の権利を尊重する態度を養う。
- ・利用者の自立支援の観点から、利用者の全人格的理解と福祉サービスの全体像を把握でき、適切な援助ができる能力を身につける。

【授業の展開計画】

【実習の概要】

1. 利用者への適正な介護技術が援助でき、カンファレンスの意義やあり方、連携の必要性を理解して積極的な参加ができるようにする。
2. 福祉機器や福祉用具の知識と活用を学ぶ。

【実習内容】

1. 利用者の生活状況を理解する。
2. 障害に応じたコミュニケーションの方法を習得する。
3. カンファレンスについて理解し、実践する。
4. 利用者の状態やニーズに応じた介護技術や援助の方法を実践する。

【履修上の注意事項】

実習生として相応しい学修態度に留意し、実習中の課題に取り組むこと
実習前には、介護総合演習における事前学習を振り返ること
実習終了後は、実習を振り返った報告書を見直し、自己課題を明確にしておくこと

【評価方法】

施設評価60%、教員評価30%、その他10%

【テキスト】

新) 介護福祉士養成講座編集『介護総合演習・介護実習』中央法規

【参考文献】

本学で作成した「介護実習要項」と「実習日誌」等

介護実習Ⅲ

担当教員 吉岡 久美、馬場 敏彰

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

講義・演習における学びを基本とし、高齢者および障がい者施設で生活する利用者を理解し、その介護を具体的にアセスメントする。また、日常生活に必要な支援技術を実践することで、介護技術を習得する。

【授業の展開計画】

【実習の概要】

- ・生活支援技術が必要な高齢者及び障がい者の生活を夜間の状況を含めて理解する。
- ・適正な介護技術の提供のための利用者理解とアセスメントを行い、課題の抽出と目標の設定を行うことで、尊厳に基づいた個別性のある介護を考える。
- ・カンファレンスの意義やあり方、連携の必要性を理解し、チームアプローチを学ぶ。

【実習内容】

1. 様々な情報源から、日常生活に支障のある高齢者や障がい者の生活を把握し、その介護ニーズを見出す。
2. 生活の困難に応じた介護技術の提供方法を習得する。
3. 尊厳を重視する介護について学ぶ。
4. 施設における介護の実践が終日継続されていることを体験し、連携の必要性を学ぶ。

【履修上の注意事項】

実習生としてふさわしい学習態度に留意し、実習中の課題に取り組むこと
実習前には、介護総合演習における事前学習を振り返ること
実習終了後は、実習を振り返った報告書を見直し、自己課題を明確にしておくこと

【評価方法】

施設評価：60% 教員評価：30% その他提出物等：10%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集「介護総合演習・介護実習」 中央法規

【参考文献】

本学で作成した「介護実習要項」と「実習日誌」等

介護実習Ⅳ

担当教員 吉岡 久美、馬場 敏彰

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

福祉施設職員の組織を理解し、チームの一員として介護を遂行する能力を養う。

【授業の展開計画】

【実習の概要】

1. 施設運営のプログラムに参加し、福祉サービス全般について理解する。
2. 施設の通所サービスに参加し、地域、家族、施設の関係について学ぶ。

【実習内容】

1. 利用者の個別の特性を把握して個別介護計画を立案し実施することで、利用者の変化を把握する。
2. 利用者を全人的に受け止め、その生活や存在全体を考える。
3. 夜間学習を体験することで、介護の継続性やチームワークについて学ぶ。
4. 多職種の業務を見学してそのかかわりを知り、介護専門職の役割を理解する。

【履修上の注意事項】

実習生としてふさわしい学習態度に留意し、実習中の課題に取り組むこと
実習前には、介護総合演習における事前学習を振り返ること
実習終了後は、実習を振り返った報告書を見直し、自己課題を明確にしておくこと

【評価方法】

施設評価：60% 教員評価：30% その他提出物等：10%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集「介護総合演習・介護実習」 中央法規

【参考文献】

本学で作成した「介護実習要項」と「実習日誌」等

介護実習V

担当教員 吉岡 久美

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 実習

単位数 2

【授業のねらい】

居宅介護、グループホーム等の実習を体験することにより、高齢者が住み慣れた住宅や地域の中で自己の能力を最大限に生かして、その人らしい生活が継続できるようにするための実践活動ができる。

【授業の展開計画】

【実習の概要】

1. 居宅介護、グループホーム等の実習を体験することで、高齢者や障がい者が住み慣れた住宅や地域の中でその人らしい生活が継続できるようにするための実践活動を学ぶ。
2. 居宅生活を支援する介護福祉士の役割を学ぶ。

【実習内容】

1. 居宅、グループホーム等で介護を必要とする人の生活を把握し、介護ニーズにあった介護の提供を学ぶ。
2. 居宅、グループホーム等での利用者と家族、地域とのつながりを知り、関連するサービスの必要性を学ぶ。
3. 居宅生活を支援する医療・保健・福祉の連携について学び、介護福祉士の役割を理解する。

【履修上の注意事項】

介護実習Ⅳを修了していること

実習前には、介護総合演習における事前学習を振り返ること。

実習終了後は、実習を振り返った報告書を見直し、自己課題を明確にしておくこと。

【評価方法】

施設指導者による評価:60% 実習担当教員による評価:30% 実習への総合的な積極性:10%

【テキスト】

新) 介護福祉士養成講座編集『介護総合演習・介護実習』中央法規

【参考文献】

本学で作成した「介護実習要項」と「実習日誌」等

医療的ケアの基礎 I

担当教員 吉岡 久美

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

[授業の目的・ねらい] 介護福祉士に求められる医療的ケアに関する基本を理解する。

[授業全体の内容の概要] 医療的ケアに必要な個人の尊厳及びさまざまな医療に関する制度、感染予防を理解するとともに、医療的ケアである「たんの吸引」について理解する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）] 医療的ケアを行う上での制度の理解と尊厳について説明できる。適切な感染予防方法の説明、高齢者及び障害児・者に行う「たんの吸引」の必要性が説明できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	個人の尊厳と自立、医療の倫理の理解、利用者や家族の気持ちの理解
2	保健医療制度、医行為に関する法律
3	チーム医療と介護職員の連携、安全な療養生活のための医療的ケアの提供の重要性
4	リスクマネジメントとアクシデント報告の重要性、救急蘇生の必要性の判断
5	救急蘇生法の理解と実際の方法
6	感染予防と清潔の保持
7	療養環境の清潔と消毒方法、消毒薬の使い方と留意点
8	身体・精神の健康の理解と健康状態の把握
9	健康状態を知る具体的方法の理解と急変時の対応
10	たんの吸引概論～呼吸のしくみとはたらき
11	異状の呼吸とそれに伴う苦痛と障害、たんの排出のしくみ
12	たんの吸引が必要な状態の理解、人工呼吸療法
13	人工呼吸器のしくみ、生活支援上の留意点と医療職との連携、子どもの吸引の留意点
14	吸引を受ける利用者・家族の気持ちと対応、呼吸器感染の予防
15	たんの吸引による危険、安全確認方法と事故発生予防・事故対策

【履修上の注意事項】

授業内ではディスカッションを取り入れることもあるため、参加的態度で臨むこと。

提示してある項目について、必ず事前にテキストを確認して課題に取り組むこと。

講義終了後は、ノートをまとめなおし、講義中に確認できた理解不足事項を補うとともに、課題を完成させること。

【評価方法】

原則として筆記試験（60％）、ディスカッション参加＋小レポート（40％）を評価の対象とする。

【テキスト】

メヂカルフレンド社 最新介護福祉全書13 医療的ケア（DVD付き）

【参考文献】

講義中に適宜、指示する。

医療的ケアの基礎Ⅱ

担当教員 吉岡 久美

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考 平成29年度は閉講

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

介護福祉士に求められる医療的ケアに関する基本を理解する。

到達目標：「喀痰吸引」の実施手順が説明できる。栄養の必要性が説明できる。「経管栄養」の必要性が説明できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	喀痰吸引の必要性を振り返り、実施の留意点と急変・事故時の対応、人工呼吸器について知る
2	喀痰吸引で使用する機材とその消毒を含めた取扱いを理解する
3	吸引の物品準備、利用者への説明と事前準備から片づけまでが説明できるようになる
4	吸引に伴うケア、医療職への報告、記録の意義と書き方を理解する
5	消化器系のしくみと働きの理解を深める
6	消化・吸収のしくみを振り返り、消化器症状、経管栄養が必要な状態を理解する
7	経管栄養のしくみと注入内容に関する知識を得る
8	経管栄養実施上の留意点を学び、子供の経管栄養について理解する
9	経管栄養に関する感染とその予防方法、利用者・家族の気持ちを理解した説明と同意を考える
10	経管栄養による危険、注入後の安全確認、急変・事故発生時の対応と事前対策を知る
11	経管栄養実施手順の理解～経管栄養に必要な器材と清潔保持を理解する
12	経管栄養の物品準備、利用者への説明と事前準備から片づけまでが説明できるようになる
13	経管栄養を受ける利用者のプライバシーを考える 消化機能を促進するケアを理解する
14	経管栄養に必要なケア（体位、口腔、鼻腔、胃瘻部の確認等）の理解を深める
15	医療職への報告、連絡、記録について理解する

【履修上の注意事項】

講義内ではディスカッションを取り入れるため、参加的態度でのぞむこと。

事前学習として、次回の単元に関するテキストを熟読しておくこと。

事後学習では、講義のノートをまとめなおし、関連科目の復習も添えておくこと。

【評価方法】

原則として筆記試験60%、ディスカッション参加・小レポート40%を評価対象とする

【テキスト】

最新介護福祉全書13 医療的ケア (メヂカルフレンド社)

【参考文献】

介護職員等のための医療的ケア 公益財団法人日本訪問看護財団編 ミネルヴァ書房 最新版

医療的ケアの実践

担当教員 吉岡 久美

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考 平成29年度は閉講。

開講時期 第1学期

授業形態 講義・演習

単位数 1

【授業のねらい】

介護福祉士に求められる医療的ケアに関する基本を踏まえた実践を行う。
到達目標：喀痰吸引、経管栄養の実施手順が説明でき、物品準備、教材モデルを対象にした実践、観察、片づけなどの一連の手技が説明でき、実施できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義：吸引における身体状況の確認と準備から片づけ、観察、記録方法
2	演習：痰の吸引（口腔内吸引5回以上、鼻腔内吸引5回以上、気管カニューレ内部5回以上）の実践
3	講義：経管栄養における身体状況の確認と準備から片づけ、観察、記録方法
4	演習：経管栄養（胃瘻または腸瘻5回以上、経鼻5回以上）の実践
5	講義：救急時の判断と対応
6	演習：救急蘇生法（1回以上）の実施、観察と記録、報告の実践
7	講義：痰の吸引、経管栄養、救急時の対応の振り返り
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【履修上の注意事項】

実践を中心とした演習はまじめに取り組み、講義中のディスカッションでは積極的態度で臨むこと
事前学習及び事後学習を行い、記録にとどめ、学習を深めること（これが不十分であれば演習を実施しないこともありうる）

【評価方法】

原則として、演習時の実践60%、実技試験40%

【テキスト】

最新介護福祉全書13 医療的ケア メヂカルフレンド社

【参考文献】

医療的ケア実習

担当教員 吉岡 久美

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考 平成29年度は閉講。

開講時期 第1学期

授業形態 実習

単位数 2

【授業のねらい】

介護福祉士に求められる医療的ケアである「喀痰吸引」、「経管栄養」を、指導者のもとで安全、安楽に実践する技術を習得し、対象者の尊厳、感染防止、以上の早期発見に留意しながら実践する。

到達目標：対象者の尊厳を守り、安全・安楽な吸引や経管栄養の援助に関する物品準備、観察、実践、片づけなどの一連の主義が説明でき、実施できる。

【授業の展開計画】

1. 喀痰吸引（口腔内10回以上、鼻腔内20回以上、可能であれば機関カニューレ内部20回以上）を、指導者の指示を受けながら、利用者の心身の状態を正確に観察し、指導者と連携し医師に報告し、喀痰の吸引を安全、安楽、かつ効果的に実施する。

2. 経管栄養（胃瘻または腸瘻20回以上、可能であれば経鼻20回以上）を、指導者の指示を受けながら、利用者の心身の状態を正確に観察し、指導者と連携し医師に報告し、経管栄養を安全、安楽、かつ効果的に実施する。

【履修上の注意事項】

実習施設のきまりを守り、個人情報保護、尊厳の順守、真摯な態度での実習をすること。

事前学習として、医療的ケアの基礎Ⅰ、Ⅱを振り返り、解剖整理、疾患の理解等を深め、医療的ケアの実践で行った技術の再確認と観察項目の確認をすること。

事後学習では、実際に振り返り、補助がなく実践できるための手順の確認と観察、対応を明確にすること。

【評価方法】

実習施設指導者評価60%、指導教員評価30%、記録等の提出10%

【テキスト】

医療的ケア（メヂカルフレンド社）

【参考文献】